

小学校 生活科・総合的な学習の時間 部会

部会長 真木小学校 校長 中 川 真 一
実践者 市場小学校 教諭 大久保 香世子

1 研究主題

「家庭生活や自分自身への気づき」を育む生活科の学習
～家庭生活における具体的な活動（お手伝い）を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

少子化や核家族化が急激に進み、子どもの遊びも大きく変化する中、これまで実生活の中で培われてきた問題解決能力や判断力、他人を思いやる心などが育ちにくい状況にある。また、身近な人との関わりの中で自他の良さや成長を自覚する機会も少ない。そのような中で、小学校においては、「自分の生活や地域を対象として、具体的な活動や体験を通して、自分とのかかわりで学ぶ」生活科学習を通して、自分自身への気づきが生まれ、それらが相まって資質や能力及び態度を育成し、確かな行動へと結びつくことが期待されている。生活科の学習を通して、自立への基礎を培う必要があり、学校教育の果たす役割は大きくなっている。

そこで、家庭生活の中でお手伝いをする活動と関連させながら生活科の指導を行うことは「生活上の自立」を育み生活科の究極的な目標である「自立への基礎」を培うことができると思う。

(2) 子ども達の実態から

教室での様子を見ると、係りの仕事や身の回りのことなど自分でやらなければならないことが、まだ、進んでできない児童も見受けられる。家庭の仕事の分担やお手伝いは、家族のみんなが楽しく生活していくために大切であることを体験を通しながら、気付かせていきたい。子ども達にとって、家庭は生活の場であり心の居場所である。小学校低学年の子どもは家庭に全面的に依存し、家庭生活の中の自分でできることに気付いていないことが多い。本学級の児童も依存している子ども達が多く見うけられる。生活が便利になったため保護者が教育的な意識をもって手伝わせない、子どもが手伝う機会が少なくなってしまうという背景も考えられる。子どもたちは、自分自身も家族の一員として役割を果たしていくことの大切さに気付いていない。

このような実態から、児童一人一人の家庭環境は異なるが、家族みんなが支え合って生活していること、自分もその中の一員であることに気付かせることが大切である。お手伝いという具体的な活動を軸に、児童が家族とともにしていることや家族にしてもらっていることを振り返り、家族のことや、家庭生活における自分のこと、自分でできることなどについて考えていく中で新たな自分自身に気づき、自分の役割を進んでできるようになることを目指す。

(3) 生活科の目標から

生活科は児童の身近な生活圏を学習の場や対象とし、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心を持ち、児童が具体的な体験や活動を通して、それらを自分との関

わりにおいて一体的にとらえるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせる「自立への基礎を培う」教科である。家庭生活の中でお手伝いという活動を通して、家庭生活を支える一員であるという自分自身への気づきを発見し自立への基礎を培っていききたい。

3 主題の意味

(1) 「家庭生活や自分自身への気づき」とは

自立への基礎を養うことは、生活科の究極的な目標である。具体的な活動や体験を通すことによって、身近な事象と自分との関わりに関心をもつこと、自分自身や自分の生活についての理解を深めることが大切である。ここでは、家庭生活の中でお手伝いという活動を通して、自分自身や自分の生活について新たな気づきをすることである。具体的には、家庭生活を支えている家族や、家庭生活における自分のこと、自分でできることについて考え、自分の役割を進んで実践できるようになることを目指している。児童が、家庭生活を支えている家族について考えるためには、家事に関する仕事について尋ねたり、実際に手伝いをしたりすることによって、児童が家庭での生活を振り返るようにしたい。手伝いをしていく中で、自分にもできる役割があることに気づき、家族の思いを聞き家族の役に立っていることを実感した児童は、自分の役割を積極的に果たそうとするだろう。

(2) 「具体的な活動」とは

具体的な活動とは、例えば、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てるなど直接働きかける学習活動であり、また、そうした活動の楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作などの方法によって表現する学習活動のことである。ここでは、家庭生活の中で「お手伝い」の活動を位置づける。具体的には、

- ① 家庭生活の観察・家族への聞き取り（家庭生活の家族の役割に気付く）
- ② お手伝いの実践（家族に支えられていることに気づき、家庭生活におけるそれぞれの役割の価値、家庭の温かさが分かる）
- ③ 実践を振り返る（絵と言葉で書くことによって自分の役割の大切さに気付く）
- ④ 実践の交流（充実感や自信を持つ）

4 研究の目標

自分自身への気づきを発見するために、「気づきの明確化」と「言語活動での交流の場」を通して、よりよい生活科の時間の指導の在り方を究明していく。

5 研究仮説

生活科の時間において、次のような手立てをとれば、児童が自分自身への気づきが生まれ、家庭での自分の役割を積極的に果たしていこうとする態度を育成することができるであろう。

(1) 自分自身への気づきを生む工夫

- ①活動を振り返り、絵と言葉で表現する
- ②気づきを共有する場の設定と価値づけ

(2) 自分の役割を果たそうとする意欲を高めるための工夫

- ①家族からのお手紙の交流

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 単元「めざせ おしごとめいじん！！」 (1年生 12月実施)

(2) 単元の目標

- 家庭生活を支えている家族のことや自分でできるようになったことなどを考え、自分の役割を積極的に果たそうとする意欲をもち、実践できるようにする。

(3) 単元の評価規準

- 家族や自分の生活を振り返ることにより、家族のことや家庭生活、自分の役割を積極的に果たそうとしている。

(関心・意欲・態度)

- 家庭生活を支えている家族のことや自分もその一員としてできることを考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それをすなおに表現している。

(思考・判断・表現)

- 家庭生活を支えている家族のことが分かり、その一員としての自分ができることに気づいている。

(身近な環境や自分についての気付き)

(4) 単元の指導計画

単元	めざせ しごとめいじん	総時数	14時間	時期	12月
過程	時数	主な学習活動・内容	指導上の留意点（援助・支援）		
であう	1	<p><いっしょがいいね></p> <p>○自分の家族のことや、家族について楽しかったこと、家の人がかこにこしていた時のことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に旅行に行って楽しかった。 ・病気の時、お仕事を休んで病院に連れて行ってくれた。 ・お誕生日をお祝いしてくれた。 ・運動会で1等を取ったときにかこにこしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見ながら家族との楽しい思い出や日常生活でのふれあい、自分への愛情を感じることを自由に発表させる。 ・プライバシーへの配慮をする。 		
かかわる	3	<p><家族の一日></p> <p>○自分の一日と家族の一日の生活の流れを取材し、家族の生活にリズムがあることや様々な家事を家族が行っていることに気付きまとめる。</p> <p>○調べたことを友達と伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取材する家族の選択は2人以上にして離れている祖父母（下校後に帰る場所等）にも広げさせる。 ・取材したことをもとに気付いたことを学習シートにまとめさせる。 ・自分のためにしてくれている事も考えさせる。 		
	1	<p><家の中で探してみよう></p> <p>○調べたことを伝え合うことで、各</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家で取材できるように学習シートを工夫する。事前に家庭に協力を依頼す 		

		家庭では役割分担が違うことや、友達がしている仕事や手伝いを参考にできそうなことを考える。	る。
広 げ る ・ 深 め る	3	<p><家の仕事に挑戦しよう></p> <p>○自分一人でできること、やってみたいことを決めて計画する。</p> <p>○1週間ほど家庭で学習カードに記入しながら仕事をする。 (おしごとチャレンジウィーク)</p> <p>○学習カードをまとめ発表する。</p>	<p>・学習シートを準備して1週間取り組ませる。</p> <p>・学習シートには、自分の感想や家の人から評価を記入してもらおう。</p> <p>・自分の取り組みを振り返り、まとめることで、自分自身への気付きが明確になるようにする。</p> <p>・学級全員の取り組みが分かるように教室に掲示し、次の活動に生かせるようにする。</p>
	6	<p><家族にこにこ大きくせん></p> <p>○家族が喜ぶことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日ちゃんとお手伝いすること。 ・上手にやること。 ・新しい仕事やお手伝いをする。 ・頼まれたらすぐやること。 ・誕生日会を開くこと。 ・自分の事をちゃんとやること。 <p>○「にこにこ大きくせん」を行う計画をし、準備をする。</p> <p>○活動を振り返り、その様子や結果をまとめる。</p> <p>○まとめたことを発表し、気付いたことを伝え合う。</p> <p><冬休みも家族にこにこ大きくせんをしよう></p>	<p>・グループで家族が喜ぶことについて考えを交流させるようにする。</p> <p>・次の計画につながるように学習シートを工夫する。</p> <p>・児童の作戦に合った計画を立てやすいように計画表を工夫する。</p> <p>・「にこにこ大きくせん」の様子や結果をこれまで学習した表現方法でまとめさせる。</p> <p>・伝え合う場を設定し、家族が喜ぶことにはいろいろな方法があることに気付かせる。</p>

7 指導の実際

(1) かかわる段階

(2) 家庭生活に必要な仕事や自分のためにしてくれていることに気付くことができるように「家の中でさがしてみよう」のワークシートを使って、家の中で誰が、どんな仕事をしているのかを調べた。見つけた仕事は以下の内容である。

だれ	しごと
おかあさん	ごはんの用意
おかあさん	洗濯
おかあさん	お風呂掃除
おかあさん	食器洗い
おかあさん、おとうさん	そうじきをかけていた など

調べたことを交流し、思ったことや考えたことを伝え合った。友達が調べた事を聞くことにより、自分の家庭でも同じような仕事があることに気付くことができた。「家のことをたくさんしてくれている。」「お仕事もあるのに大変。」「なにかお手伝いをしたい。」などの意見が出て、家庭生活を支える家族の役割に気付いていった。家族の一人としてみんなにもできないことがないかと問いかけると、たくさんの児童が「お手伝いをしたい」と意欲が高まっていた。そこで、家の人と話し合いをする中で児童にもできる仕事を2つ決めていった。その後、「おしごとチャレンジウィーク」と名付けて、1週間取り組み、達成感をもたせるために家の人から評価を頂いた。実践後は、絵と言葉で感想や気付いたことを表現し伝えあった。

<家の人からのコメント>

一週間お手伝いをしてくれてありがとうございます。とても、たすかりました。

<家の人からのコメント>

寒いのに、お風呂掃除をがんばってくれました。これからも、続けてくれたら嬉しいです。

家の人からのコメントを全体に伝えた。その中で、お手伝いをしたことで家の人喜んでくれ、たすかったというコメントが多くあった。紹介をしているときの児童の表情は、照れながらも家族の役に立てた喜びを感じていた。自分も家族の一員としてできることに気付くことができた。

さらに、その気付きを深めるために家族が喜ぶ「にこにこ大きくせん」を実践した。ここでは、仕事だけにとどまらず、自分の家族がどのようにあってほしいのか、家庭生活が楽しくなるにはどんなことを行えばよいのかなども考えさせることで、家族の気持ちに気付かせ、そこに視点をあてた「家族にこにこ大きくせん」を行った。肩たたきや、学校で作ったかるたで一緒に遊ぶ、妹や弟の面倒をみるなど今までにはなかったことを考えて実践していった。児童は、振り返りの中で自分の役割を行うことで家族が喜んでくれる姿を見て達成感を得ることができた。さらに今後も継続していく意欲を高めることができた。

<今後の実践への意欲が高まった振り返りでの児童の感想>

- お母さんもがんばってるから、これからもがんばりたい。
- いつもにこにこしてほしいから、お仕事をがんばる。
- おばあちゃんの疲れをとるために、これからもつづきたい。
- お母さん・お父さんへの恩返しでがんばりたい。
- お母さんがいそがしそうだから、これからもがんばりたい。

8 研究のまとめ

家庭生活における仕事の活動を通して、家族が家庭生活を支えていること・自分自身も家族の一員として家庭生活を支えるためにできることに気付くことができた。活動をするだけでなく、「実践・振り返り・交流・実践・振り返り・交流」を設定したことが大変効果的であった。児童は活動をしていく中で様々な気付きをしていた。それらを言葉や絵を使って表現することによって、生みだした気付きを自覚することができた。さらに、家族の思いを知ることで達成感を得ることができ今後の実践意欲へつなげることができた。

9 成果と今後の課題

【成果】

<家庭生活や自分自身への気付き>

- 実践を振り返り交流する中で、家族がさまざまな仕事を行い家庭生活を支えていることに気付くことができた。
- 活動を通して、自分にも家族のためにできることがあることに気付くことができた。

【課題】

<意欲の継続・気付き・価値づけ>

- 気付きや価値を深めるために、道徳や学活など他の教科との関連を図る必要がある。
- 活動中の意欲を継続するために、朝の会や帰りの会で活動報告の時間の設定。
- 今後の実践意欲を高めるために、児童から家の人に実践を通して感じた家族の支えや、今後の自分自身の役割について書かせた手紙などを書く。

◎参考文献

「小学校学習指導要領解説 生活科編」

「小学校 新学習指導要領の授業 生活科 実践事例集」小学館